

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域の中で生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国のモデル事業として介護保険制度の開始前から開設している。庭園付きの民家を改修している事業所は、3つあるユニット毎に一戸の家として建てられており、ユニットリーダーを中心にユニット毎の特徴を活かし、利用者職員が家族のように家庭的なゆったりとした生活を実現している。事業所は家庭的で穏やかな雰囲気づくりをしており、利用者が自宅で暮らしていた当たり前のことができることを、職員間で意識統一して日々のケアに取り組んでいる。研修棟もあり、民謡などのボランティアや小学生のふれあい訪問があるなど、交流の場として利用している。職員同士の良好な関係が築かれ、働きやすい環境整備のされた職場には長期に勤める職員も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム むつみの家

(ユニット名) 1棟

記入者(管理者)
氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成 26 年 8 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット内に掲示。職員は、忙しい時も、なるべく落ち着いて、ゆっくり入居者に関われるよう職員間で声掛けしながら心掛けている。</p> <p>(外部評価) 「のんびり、楽しく、いっしょに」という理念を開設時に作成している。ユニット毎に理念を掲示しているほか、ミーティングやユニット会で話し合い、職員間で共有している。職員は介護していく上での指針となるよう理念を振り返り、利用者側の目線に合わせたケアを実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 入居者の心身の状況を見ながら、自治会や保育園の行事には参加するよう心掛けている。自治会の回覧板などを活用し情報の共有を図りながら取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、回覧板などで敬老会や地方祭などの地域の情報を得て、利用者と一緒に参加している。民謡などのボランティアの訪問や小学生のふれあい訪問があったり、幼稚園の運動会に参加したりするなど、交流を楽しんでいる。地域からの要望により、年4回発行する「むつみ新聞」に介護に関する情報を掲載し、回覧している。職員は自治会の掃除当番などの活動を通じて、地域住民と顔見知りとなるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的で開催している運営推進会議に自治会の方の参加を頂き認知症についての学習をしたり、防災時の避難協力・支援をして頂けるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、年6回の開催。事業所の運営状況・取り組みを報告すると共に、ご家族、地域住民、行政等の方のご意見を頂きサービス向上に努めている。 ご家族の参加が少なくなっている。今後の検討が必要である。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、協力医、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催している。会議は家族が参加しやすいよう日曜日に実施している。会議では事業所の報告を行うほか、避難訓練やAEDの使用方法、餅つき、食事会などと合わせて開催する工夫をしている。職員は交代で参加し、参加者から出された意見はサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 密な連携といっても難しい。 管理者・ユニットリーダーは、必要に応じて担当者に相談。関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターを兼務する市担当者には毎回運営推進会議に参加してもらい、アドバイスをもらっている。分からないことがあれば、直接窓口に出向き相談している。毎月事業所の待機者情報をメールで送信し情報を共有している。また、2か月に1回、2名の介護相談員の訪問があり、利用者との相談に応じたり情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には、身体拘束はしないよう心掛けている。 ご本人の安全確保のために、ご家族の了解を頂きベット柵を使用している。	
			(外部評価) 職員は外部研修に参加したり勉強会を実施したりするなど、職員全員が理解して身体拘束をしないケアに努めている。外出しようとする利用者には職員と一緒に散歩するなど見守りで対応しているが、難しい場合は精神科医に相談したり一時的に玄関を施錠する場合もある。帰宅願望のある利用者には自宅で過ごす時間を設けている。ベッドから転倒の恐れがある利用者にはベッドの位置を検討するなど、拘束に繋がる恐れのある場合には代替のケアはないかなどを関係者で話し合いをしている。また、身体拘束のほか、言葉や精神面での拘束についても職員間で話し合いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会が少なく理解が不十分であるが、入居者の方が精神的にも身体的にも苦痛を感じないよう生活支援ができるようにしている。言葉の虐待に繋がらない言葉づかいなど職員間で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、活用している方がいないのでピンとこないところがある。学ぶ機会も少なく理解不足である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の相談時から事業所の考え方を説明。本人、ご家族に納得して利用して頂いている。入居時の契約に際しては管理者・現場職員が関わり十分な説明をしご家族の理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族に対して、入居者の生活の状況を密に報告するようにしている。メッセージカードをご家族に送付。面会時等を利用して意見交換を図るようにしている。運営推進会議等でも意見交換ができるように心がけている。	
			(外部評価) ほとんどの家族は月1回以上面会があり、意見や要望を聞くようにしている。介護計画作成時にも意見を聞いているが、事業所にお任せするという意見が多い。毎月、担当職員が利用者の生活状況を記録したメッセージカードを作成し、利用者本人が書いたメッセージと併せて送付している。家族から出された意見は連絡ノートに記録し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に部署会を開催。スタッフからの意見をリーダー会で検討。スタッフにフィードバックされているが時間がかかったり、十分に反映してもらっていないと感じる事がある。</p> <p>(外部評価) ユニット毎に建物が分かれており、それぞれが一つの家庭と捉え、ユニットリーダーを中心にして職員は自由に意見を伝えることができる関係づくりができています。リーダーは職員から出された意見を集約し、部署会で報告し、管理者は「むつみの家」の意見として法人会議で報告するなど、職員の意見を段階的に法人代表者に伝える体制ができています。職員から積極的な意見や提案が出され、運営に反映されることで働きがいにも繋がり、長期に勤める職員も多い。また、年1回管理者は職員と個別面談を実施し、意見交換をしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 母体病院の事務長・看護部長が巡回している。その機会を活用し、職場環境の改善等をお願いしている。 また、法人の理事である医師がグループホームの担当医師であり直接相談できる状況である。管理者は母体病院で定期的に行われる会議の中で運営報告、改善を図っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内で全職員に対して定期的な研修を実施している。事業所内でも定期的に研修会を実施。事業所外に於いても上部組織の開催する研修には積極的に参加できる体制にしている。個々の資質の向上が図れるようにしている。今後は得た情報の共有の充実を図りたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 定期的に開催される地域密着型サービス協会主催の研修に参加。知識・技術だけでなく、ネットワークを大切にしている。継続して行きたい。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の状況を把握、ご家族の意見・要望を十分聴き取り、日々のケアのなかで声掛け・見守りを密にし、本人の不安の軽減に努めている。また、職員間の情報の共有をより密にしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の段階で、ご家族からの相談、要望に耳を傾けるよう意識している。 入居前に提供されるフェースシートの情報も大切である。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時、その後も、常にご家族・ご本人の希望・要望等をお聞きしスタッフ間で話し合い、期待に添えることのできるよう心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人のできる事は無理のないよう共に行って頂いている。 できない部分に対してさりげなくサポートするようにしている。 コミュニケーションを多く取ることで普段から何でも気兼ねなく言い合える関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の気持ちや思いを汲み取れるよう、面会時等はコミュニケーションを取りご家族の不安や希望を聴き取れるように努めている。 入居者様の状況はこまめに報告し情報の共有を図っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 特に、面会の制限はなく、気兼ねなくかかわって頂いている。 今まで通っていた病院、美容院等も希望に沿って継続できている。 (外部評価) 家族や知人等に気軽に事業所を訪問してもらえるよう心がけて対応をしている。 馴染みの美容室等に出かけられるよう支援している。 必要に応じて訪問美容や訪問歯科に来てもらい、新しい馴染みの関係もできている。 ユニット間は別々の建物になっているが、民謡ボランティアや小学生の訪問時など、1か所に集まってもらい、他のユニットの利用者との交流を深めている。 毎日、家族に電話する利用者の支援をしたり、家族に面会に来てもらうよう働きかけるなど、家族との良好な関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 全体のレクリエーションを通して、孤立することのないよう支援している。自発的に入居者同士が支え合える関係もできしており、見守りという形で支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には、次の受け入れ先に対して情報提供を行い、随時、ご家族の相談を受けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランを立てる時は、ご本人、ご家族の意向を確認、取り入れている。日常生活の中でも、入居者の発する声を逃さず、希望に沿ったプランが立案できるように努めている。 (外部評価) 職員は居室など利用者との1対1で会話ができる時間を設け、思いや意向を把握するよう努めている。日々の生活の中で利用者は思いや意向を言われる場合もあり、把握できるよう努めている。高齢化に伴い、思いを言い表すことのできる利用者が少なくなっているため、会話の中で意向を引き出すように工夫し、家族の協力を得ながら利用者の表情や様子を見て気持ちをくみ取るなど、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅時の担当ケアマネから情報を得たり、ご家族からの情報を基に生活支援をし、入居後の生活を共にするなか状況観察・状態把握をしながら支援の仕方を模索している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りを通して、細かい心身の状態を把握している。日々の関わりのなかでコミュニケーションを多く取り、少しの変化にも気付けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプラン作成・見直しの際に、ご家族のご意見・希望を聴き入れるようにしている。ご本人からの希望の聴き取りが難しいが主体の介護・支援計画が作成できるよう努めている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者毎の担当職員の意見も取り入れ、介護計画を作成している。担当職員がサービス実施状況など細かい記録を確認し、毎月モニタリングを実施している。6か月に1回、家族や担当職員、介護支援専門員が参加したサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態が変化した場合は、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録や週間活動表に具体的に記入し、職員間で共有できるようにしモニタリングしケアプランに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族の状況・ニーズに柔軟に対応・支援しサービスの提供ができるよう協力体制をもって対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 高齢者が多く、身体機能の低下があり、外に向けての活動が難しくなっている。 保育園園児等との交流等、事業所内活動の充実に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期的に母体病院の担当医が往診している。 往診以外に、ご家族の協力を頂きながら、個々の入居者のか かりつけ病院を利用している。その他、必要に応じて近隣の 病院を受診指定。ご家族が同行したりスタッフが同行したり 協力しながら対応している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう支 援している。月2回、母体病院から往診があり、体調面など の管理をしている。協力医となっている母体病院は総合病院 で待ち時間が長い場合、風邪症状や急な体調不良時には近隣 の病院を受診してもらっている。毎日のバイタルチェックや 体調の変化を確認してから受診してもらい、受診後には診療 情報などを病院から報告してもらうなど連携を図っている。 受診は家族の付き添いを基本としているが、家族が同行でき ない場合や緊急時には、職員が受診介助をするなど安心して 医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日の申し送りを基本に、職場内の看護師と相談し対処して いる。状況に応じ担当医に相談。指示を頂きながら対応・支 援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や担当医と相談、退院の 支援を行っている。できる限り継続的な関わりができる様、 情報を提供し病院関係者との連携・サポートできるよう努め ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時、また状態の変化に応じて、その都度事業所としての 考え方を説明している。ご家族としては先々への不安が強 いため母体病院との連携強化を図ると共に特養等の施設への申 請をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を作成 し、入居時に利用者や家族に事業所では看取りをしない方針 であることを説明し、理解を得ている。開設して長年が経過 し、利用者から住み慣れた場所で最期を迎えたい要望が増え ており、重度化した場合でも身体状況に応じて、少しでも長 く事業所で生活が送れるよう、浴室やトイレの改修を検討し ている。また、事業所で対応できなくなった場合には、利用 者が母体病院への入院や介護老人福祉施設へ入所できるよう 支援をしている。</p>	利用者から住み慣れた場所で最期を迎えたい要望が多 いことから、重度化した場合や終末期のあり方を段階 に応じて話し合い、事業所として対応できる内容を十分 説明しながら支援に取り組むことを期待したい。また、 重度や医療度の高い利用者の介護について勉強会 を実施したり、職員間で話し合ったりするなど、利用 者や家族の要望に沿ったケアを実践できる取組みを期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体病院の看護師、事業所内のスタッフが定期的に学習会を行っている。また、避難訓練時、消防署の方より初期対応や心肺蘇生、AEDの使用方法など研修をしている。今後も継続して行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練、応急処置訓練の実施。避難指定場所への避難訓練等を実施している。また、自治会の開催する防災研修にも自治会員の一人として参加し共に学ぶようにしている。今後も、地域の方との連携強化を図り、非常災害時の対応がスムーズにできるようにしたい。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。実際に利用者と一緒に地域の避難場所となっている小学校まで避難する訓練を行うなど、災害発生時に備えている。緊急連絡網には自治会長も入り、災害発生時は公民館で放送してもらえ体制が取れている。また、地区の防災訓練に参加し、地域との協力体制を築いている。管理者は繰り返し訓練を実施することを大切と考えており、職員全員が利用者の安全を守るため緊張感を持って災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者ひとりひとりの個性を大切に、親しみを持ちながら支援している。その人のプライドを傷つけないよう努めている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の大先輩として尊重し、乱暴な言葉づかいや指示的な声かけをしないよう配慮して、「一人の人間として暮らしを支える」という気持ちで対応している。利用者の状況により、場所を変えて職員と1対1で向き合い、プライバシーを損ねない対応に努めている。また、利用者の個人情報に配慮しつつ、事業所や利用者のことを近隣住民に知ってもらおうよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援のなかの、表情や会話から、ご本人の気持ちを汲み取り、要望や思いを聴き取れるよう心掛けている。常に問ひかけの言葉かけになるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の業務の都合に合わせてしまうことが多々あるが 入居者個々のペースを大切に、要望に添えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族とも話し合いながら、その人の状況に応じた身だしなみやおしゃれができるよう気配りしている。 ご本人と一緒に買い物外出、理美容院への散髪外出などを実施している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ひとりひとりの能力を把握し、それに応じた準備を行い、食事が楽しくなるようにしている。 (外部評価) 職員が交代でメニューを考え、毎日利用者と一緒に地域のお店へ買い物に出かけ、季節の旬の食材を取り入れて職員が調理している。利用者一人ひとりの状況に合わせて、食器や食事形態を工夫している。利用者の好みのデザートや飲み物を摂れるよう対応している。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら、朝食と夕食時に同じものを食べている。また、回転寿司などの外食を取り入れ、食事が楽しみになる工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者個々によって個人差があるので、食事量・水分摂取量をチェックしながら無理強いしないよう勧めている。ひとりひとりの嗜好も考慮し工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎回、ひとりひとりの口腔内チェックはできかねるが、個々によって介助・見守りの必要な人に対しては付き添い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄能力・状況に合わせ紙パンツ・パットを使用している。適時、トイレ誘導を行い可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。不潔行為に至ってしまう方もいるので注意深く支援している。 (外部評価) 排泄チェック表を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者に合わせて声かけをして誘導し、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。紙パンツやパットを使用している利用者もいるが、現状を維持してもらうことを目標にして支援している。スムーズに排泄できるよう、水分量を記録し、一定の量を飲んでもらうよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けているが、困難な方には緩下剤を服用している。個々の排便リズムを把握、調整している。また、水分補給や牛乳・ヨーグルト等の乳酸菌の飲み物を飲んで頂くなどの工夫もしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的な日時を決めているが、個々の意向を大切にしている。入浴を拒否する方もおられるが、声掛けを工夫して入浴をして頂き、清潔の保持ができるように努めている。 (外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、希望に応じて、毎日入浴したい利用者にも対応している。入浴を嫌がる利用者には時間を変更したり、職員が交替して声かけをする工夫をするなど、無理強いせずに入浴してもらえよう努めている。また、シャワーキャリーやチェアなどの福祉用具を使用し、安心安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者個々の生活リズムに合わせ、休息が取れるよう支援している。夜間の覚醒時には、声掛けや見守りを行い、十分な睡眠が取れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用、用法や適量については、お薬説明書等を職員全員が熟読し理解できるよう努めている。服用時にはスタッフ間で確認しながら服薬支援を行い、間違いのないようにしている。医療関係者との連絡も密にし情報の共有に努め症状の変化に対して対応できるように心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりの生活歴などを把握し、できる事や興味のある事を理解し、個々に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、畑仕事、貼り絵、折り紙、トランプ、カルタ等、ご本人の負担にならないように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩など、ご本人の希望に応じて支援できるよう心掛けている。地域の行事にも、ご本人の状態を考慮しながら参加できるよう支援している。季節ごとの花見、イチゴ狩り等を実施。 (外部評価) 日頃から事業所周辺を散歩したり食材などの買い物に出かけている。地域の行事に参加したり、季節に応じて、お花見や紅葉狩りなどに出かけられるよう支援している。車いすの利用者も外出できるよう、母体病院の福祉車両を借りて外出している。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	利用者一人ひとりの状態や習慣、希望に合わせて、重度の利用者にも外出できる機会を作り、利用者が戸外に出て気持ちよく気分転換しながら過ごすことができるよう、一人ひとりが外出を楽しめる支援の取組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は、事務所でやっている。入居者の買い物等については、ご家族の了解を頂き、事業所立替えにて実施できるようにしている。小遣い程度を持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) なるべくご本人の希望に添うようにしているが、混乱を招くと予想される場合は、ご本人の納得ができる言葉かけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 常に、整理整頓を心掛け、気持ちよく動きやすい空間になるようにしている。 (外部評価) ユニット毎が一户の家として、3棟が並んで立っている。庭園付きの民家を改修して開設し、2棟と3棟が増築されている。利用者は窓から庭園を眺めながら、住み慣れた生活の延長として過ごすことができている。共用空間には季節に応じた貼り絵を飾るなど、ユニット毎に特徴を活かした家庭の雰囲気の中で穏やかに過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個々の嗜好や趣味を把握し、ひとりで過ごしたり、入居者同士が交流でき楽しめるよう声掛け、空間づくりに努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族には、今まで使い慣れた馴染の家具等を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるように心がけている。ご家族とも相談しながら、ご本人が過ごしやすくなるよう工夫をしている。 (外部評価) 居室は畳敷きと洋間があり、利用者の状態や生活習慣に合わせて使い分けをしている。居室には利用者の使い慣れたベッドや寝具、テレビを持ち込んでいるほか、仏壇や家族の写真等を持ち込んでいる利用者もあり、一人ひとりが安心して過ごすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 軽度の認知症高齢者を対象とした造りになっているが、現在、入居されている方の高齢化により、身体的機能の低下が見られるため、補助具等の活用、また環境整備をしながら安全に生活できるよう支援したい。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域の中で生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国のモデル事業として介護保険制度の開始前から開設している。庭園付きの民家を改修している事業所は、3つあるユニット毎に一戸の家として建てられており、ユニットリーダーを中心にユニット毎の特徴を活かし、利用者職員が家族のように家庭的なゆったりとした生活を実現している。事業所は家庭的で穏やかな雰囲気づくりをしており、利用者が自宅で暮らしていた当たり前のことができることを、職員間で意識統一して日々のケアに取り組んでいる。研修棟もあり、民謡などのボランティアや小学生のふれあい訪問があるなど、交流の場として利用している。職員同士の良好な関係が築かれ、働きやすい環境整備のされた職場には長期に勤める職員も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム むつみの家

(ユニット名) 2棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成 26 年 8 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット内に掲示。常に職員の目のつくところに掲示。入居者のケアに反映できるように心がけている。</p> <p>(外部評価) 「のんびり、楽しく、いっしょに」という理念を開設時に作成している。ユニット毎に理念を掲示しているほか、ミーティングやユニット会で話し合い、職員間で共有している。職員は介護していく上での指針となるよう理念を振り返り、利用者側の目線に合わせたケアを実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会の年間行事等には基本的に参加するようにしている。自治会や保育園等との交流を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、回覧板などで敬老会や地方祭などの地域の情報を得て、利用者と一緒に参加している。民謡などのボランティアの訪問や小学生のふれあい訪問があったり、幼稚園の運動会に参加したりするなど、交流を楽しんでいる。地域からの要望により、年4回発行する「むつみ新聞」に介護に関する情報を掲載し、回覧している。職員は自治会の掃除当番などの活動を通じて、地域住民と顔見知りとなるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所での避難訓練や救命講習への参加の呼びかけやむつみ新聞の配布を行い、その中で脱水対策、転倒防止、認知症についての啓発を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 年6回の開催を実施。事業所の運営状況を報告するとともに ご家族、地域住民、行政等の方のご意見を頂きサービス向上 に努めるとともにオープンな運営に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、協力医、地域包 括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催してい る。会議は家族が参加しやすいよう日曜日に実施している。 会議では事業所の報告を行うほか、避難訓練やAEDの使用 方法、餅つき、食事会などと合わせて開催する工夫をしてい る。職員は交代で参加し、参加者から出された意見はサービ ス向上に反映している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 密な連携といっても難しい。必要に応じて担当者に相談。関 係づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターを兼務する市担当者には毎回運営推進 会議に参加してもらい、アドバイスをもらっている。分から ないことがあれば、直接窓口に出向き相談している。毎月事 業所の待機者情報をメールで送信し情報を共有している。ま た、2か月に1回、2名の介護相談員の訪問があり、利用者 との相談に応じたり情報交換をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 基本的理解はできている。玄関の施錠、身体拘束など でき る限り、ご本人が自由に生活できるよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 職員は外部研修に参加したり勉強会を実施したりするなど、 職員全員が理解して身体拘束をしないケアに努めている。外 出しようとする利用者には職員と一緒に散歩するなど見守り で対応しているが、難しい場合は精神科医に相談したり一時 的に玄関を施錠する場合もある。帰宅願望のある利用者には 自宅で過ごす時間を設けている。ベッドから転倒の恐れがあ る利用者にはベッドの位置を検討するなど、拘束に繋がる恐 れのある場合には代替のケアはないかなどを関係者で話し合 いを行っている。また、身体拘束のほか、言葉や精神面での拘 束についても職員間で話し合いを行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等には積極的に参加。入居の方が苦痛を感じないように生活支援ができるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 担当棟に、活用している方がいないのでピンとこないところがある。理解不足である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の相談時から事業所の考え方を説明。ご本人、ご家族に納得して利用して頂いている。入居時の契約に際しても十分な説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族に対して、入居者の生活の状況を密に報告するようにしている。また、面会時等を利用して意見交換を図るようにしている。	
			(外部評価) ほとんどの家族は月1回以上面会があり、意見や要望を聞くようにしている。介護計画作成時にも意見を聞いているが、事業所にお任せするという意見が多い。毎月、担当職員が利用者の生活状況を記録したメッセージカードを作成し、利用者本人が書いたメッセージと併せて送付している。家族から出された意見は連絡ノートに記録し、職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、部署会を開催意見を出し、ユニット責任者から 管理者に意見を上げるようにしている。 (外部評価) ユニット毎に建物が分かれており、それぞれが一つの家庭と捉え、ユニットリーダーを中心に職員は自由に意見を伝えることができる関係づくりができています。リーダーは職員から出された意見を集約し、部署会で報告し、管理者は「むつみの家」の意見として法人会議で報告するなど、職員の意見を段階的に法人代表者に伝える体制ができています。職員から積極的な意見や提案が出され、運営に反映されることで働きがいにも繋がり、長期に勤める職員も多い。また、年1回管理者は職員と個別面談を実施し、意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 母体病院の事務長・看護部長が巡回している。その機会を活用し、職場環境の改善等をお願いしている。 また、法人の理事である医師がグループホームの担当医師であり直接相談できる状況である。管理者は母体病院で定期的開催される会議の中で運営報告をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内で全職員に対して定期的な研修を実施している。 事業所外に於いても上部組織の開催する研修には積極的に参加できる体制にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 定期的開催される地域密着型サービス協会主催の研修に参加。知識・技術だけでなく、ネットワークづくりを大切にしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居初期には特に、声掛け・見守りを密にし、ご本人の不安の軽減に努めている。また、職員間の情報の共有をより密にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族からの相談、要望には常に耳を傾け、安心して頂けるように努めている。ご家族の面会時には職員の方から声掛け、入居者のホームでの生活の状況を報告。安心して頂けるよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者は身体的変調があり、医療機関への定期的な受診があったりする。ご家族と協力しながら職員の同行等を行い状況等は報告するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と入居者が疑似家族として生活を共にするという考えで生活支援をしている。食事・洗濯・掃除・余暇活動といった生活全般で共にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に対しては、入居者の生活の状況を密にとり、ご本人さんの状態把握をして頂き、職員だけでなく、ご家族の協力を頂きながら支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 事業所としては、ご本人の馴染みの関係を大切に考えている。しかし、それぞれのご家族によって状況が異なる。ご家族の了解のある方については積極的に受け入れている。	
			(外部評価) 家族や知人等に気軽に事業所を訪問してもらえよう心がけて対応をしている。馴染みの美容室等に出かけられるよう支援している。必要に応じて訪問美容や訪問歯科に来てもらい、新しい馴染みの関係もできている。ユニット間は別々の建物になっているが、民謡ボランティアや小学生の訪問時など、1か所に集ってもらい、他のユニットの利用者との交流を深めている。毎日、家族に電話する利用者の支援をしたり、家族に面会に来てもらうよう働きかけるなど、家族との良好な関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 現在、個々の入居者の状態に差があり、入居者間の交流は難しい状況にある。定期的に管理棟に集まる機会があるが個々の状況に合わせた対応をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は、ほとんど相談がない状態である。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) モニタリングを行い、ご本人の意思や思いを生活支援のためのプランに反映できるようにしている。	
			(外部評価) 職員は居室など利用者とは1対1で会話ができる時間を設け、思いや意向を把握するよう努めている。日々の生活の中で利用者は思いや意向を言われる場合もあり、把握できるよう努めている。高齢化に伴い、思いを言い表すことのできる利用者が少なくなっているため、会話の中で意向を引き出すように工夫し、家族の協力を得ながら利用者の表情や様子を見て気持ちをくみ取るなど、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) なかなか、ご本人からの情報は得れない。在宅時の担当ケアマネから情報を得たり、ご家族からの情報を基に生活支援をし、入居後の生活を共にするなか、状況観察しながら支援の仕方を模索している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の状況を把握し、対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の申し送り時に話し合ったり、毎月、全職員参加の部署会を開催。その時にカンファレンスを実施し意見交換、プランを作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者毎の担当職員の意見も取り入れ、介護計画を作成している。担当職員がサービス実施状況など細かい記録を確認し、毎月モニタリングを実施している。6か月に1回、家族や担当職員、介護支援専門員が参加したサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態が変化した場合は、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 詳細に記録し、個別的な生活支援に反映できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の身体的・精神的状況、ご家族の状況等を踏まえながらの支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月、民謡・読み聞かせなどのボランティアや訪問歯科・訪問美容の活用をしたり、毎日の生活食材の買い物の同行等を通して個々の能力活用をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族の要望を確認しながら、かかりつけ病院・協力病院・ 近隣の病院を利用、支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう支 援している。月2回、母体病院から往診があり、体調面など の管理をしている。協力医となっている母体病院は総合病院 で待ち時間が長い為、風邪症状や急な体調不良時には近隣 の病院を受診してもらっている。毎日のバイタルチェックや 体調の変化を確認してから受診してもらい、受診後には診療 情報などを病院から報告してもらうなど連携を図っている。 受診は家族の付き添いを基本としているが、家族が同行でき ない場合や緊急時には、職員が受診介助をするなど安心して 医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) できている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) できている。	
			(外部評価) 「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を作成 し、入居時に利用者や家族に事業所では看取りをしない方針 であることを説明し、理解を得ている。開設して長年が経過 し、利用者から住み慣れた場所で最期を迎えたい要望が増え ており、重度化した場合でも身体状況に応じて、少しでも長 く事業所で生活が送れるよう、浴室やトイレの改修を検討し ている。また、事業所で対応できなくなった場合には、利用 者が母体病院への入院や介護老人福祉施設へ入所できるよう 支援をしている。	利用者から住み慣れた場所で最期を迎えたい要望が多 いことから、重度化した場合や終末期のあり方を段階 に応じて話し合い、事業所として対応できる内容を十分 説明しながら支援に取り組むことを期待したい。また、 重度や医療度の高い利用者の介護について勉強会 を実施したり、職員間で話し合ったりするなど、利用 者や家族の要望に沿ったケアを実践できる取組みを期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年2回開催される訓練を行い意識付けを行っている。 また、研修にも積極的に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練、応急処置訓練の実施。避難指定場所への避難訓練等を実施している。 また、自治会の開催する防災研修にも自治会員の一人として参加し共に学ぶようにしている。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得て、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。実際に利用者と一緒に地域の避難場所となっている小学校まで避難する訓練を行うなど、災害発生時に備えている。緊急連絡網には自治会長も入り、災害発生時は公民館で放送してもらえる体制が取れている。また、地区の防災訓練に参加し、地域との協力体制を築いている。管理者は繰り返し訓練を実施することを大切と考えており、職員全員が利用者の安全を守るため緊張感を持って災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、誇りやプライドを傷つけないよう心掛けているが、時に自己本位的な言葉かけになることがある。	
			(外部評価) 職員は利用者を人生の大先輩として尊重し、乱暴な言葉づかいや指示的な声かけをしないよう配慮して、「一人の人間として暮らしを支える」という気持ちで対応している。利用者の状況により、場所を変えて職員と1対1で向き合い、プライバシーを損ねない対応に努めている。また、利用者の個人情報に配慮しつつ、事業所や利用者のことを近隣住民に知ってもらうよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限りと思って支援しているが、難しい部分も多々ある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 心掛けているが、どうしても職員のペースになりがちである。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の希望を聞き、カット・毛染めをしたり身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 衛生管理上、また、現在の状況から一緒に調理することが難しいが、年間行事の時など内容を工夫し提供できるよう心掛けている。	
			(外部評価) 職員が交代でメニューを考え、毎日利用者と一緒に地域のお店へ買い物に出かけ、季節の旬の食材を取り入れて職員が調理している。利用者一人ひとりの状況に合わせて、食器や食事形態を工夫している。利用者の好みのデザートや飲み物を摂れるよう対応している。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら、朝食と夕食時に同じものを食べている。また、回転寿司などの外食を取り入れ、食事が楽しみになる工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分摂取量を把握、不足がちな人には声掛けを密にしたり内容を変え補助し、十分な栄養と水分を捕って頂けるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛け支援。補助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握、トイレでの排泄を心掛けている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者に合わせて声かけをして誘導し、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。紙パンツやパットを使用している利用者もいるが、現状を維持してもらうことを目標にして支援している。スムーズに排泄できるよう、水分量を記録し、一定の量を飲んでもらうよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 入居者個々の排便パターンに合わせて水分補給をしたり緩下剤を使用し便秘の予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の状況を把握したうえで、体調や身体状況を加味し、ご本人に声掛け、希望や意思を聞きながら支援している。	
			(外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、希望に応じて、毎日入浴したい利用者にも対応している。入浴を嫌がる利用者には時間を変更したり、職員が交替して声かけをする工夫をするなど、無理強いせずに入浴してもらえよう努めている。また、シャワーキャリーやチェアなどの福祉用具を使用し、安心安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者個々の生活リズムを把握。 安心して眠れる様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に処方されている薬が、ご本人にどのように作用しているか、観察を怠らないように気を付けている。常に担当医師と相談しながら行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人のファイルを作成、職員間で情報を共有。ご本人が楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族との外出。買い物等への同伴外出等、ご本人の希望を聞きながら支援している。 (外部評価) 日頃から事業所周辺を散歩したり食材などの買い物に出かけている。地域の行事に参加したり、季節に応じて、お花見や紅葉狩りなどに出かけられるよう支援している。車いすの利用者も外出できるよう、母体病院の福祉車両を借りて外出している。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	利用者一人ひとりの状態や習慣、希望に合わせて、重度の利用者にも外出できる機会を作り、利用者が戸外に出て気持ちよく気分転換しながら過ごすことができるよう、一人ひとりが外出を楽しめる支援の取組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の自己管理はさせていない。ご本人が個別的に買い物の希望があれば立替え、ご家族に請求している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族の協力のもと、ご本人から電話をしたり、ご家族からかかってきたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに壁の飾りつけを行ったり、室温調整等気を付けている。 (外部評価) ユニット毎が一戸の家として、3棟が並んで立っている。庭園付きの民家を改修して開設し、2棟と3棟が増築されている。利用者は窓から庭園を眺めながら、住み慣れた生活の延長として過ごすことができている。共用空間には季節に応じた貼り絵を飾るなど、ユニット毎に特徴を活かした家庭の雰囲気の中で穏やかに過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有空間であるリビングでは、個々の状況、相性などを加味し模様替えを行い、それぞれが落ち着く空間づくりに努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 基本的には、今まで使い慣れた馴染の家具等を持ち込んで頂き居心地良く過ごせる様に心がけている。 (外部評価) 居室は畳敷きと洋間があり、利用者の状態や生活習慣に合わせて使い分けをしている。居室には利用者の使い慣れたベッドや寝具、テレビを持ち込んでいるほか、仏壇や家族の写真等を持ち込んでいる利用者もあり、一人ひとりが安心して過ごすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 身体機能の低下により、手すり等補助具の設置を行っている。また、ベットの高さ等個々に合わせて調整している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域の中で生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国のモデル事業として介護保険制度の開始前から開設している。庭園付きの民家を改修している事業所は、3つあるユニット毎に一戸の家として建てられており、ユニットリーダーを中心にユニット毎の特徴を活かし、利用者職員が家族のように家庭的なゆったりとした生活を実現している。事業所は家庭的で穏やかな雰囲気づくりをしており、利用者が自宅で暮らしていた当たり前のことができることを、職員間で意識統一して日々のケアに取り組んでいる。研修棟もあり、民謡などのボランティアや小学生のふれあい訪問があるなど、交流の場として利用している。職員同士の良好な関係が築かれ、働きやすい環境整備のされた職場には長期に勤める職員も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム むつみの家

(ユニット名) 3棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成 26 年 8 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット内に掲示。理念の意味を理解・把握し共有する事で、支援の方向性が見えてくると考えている。事あるごとに、どうあるべきか話し合いを実施している。</p> <p>(外部評価) 「のんびり、楽しく、いっしょに」という理念を開設時に作成している。ユニット毎に理念を掲示しているほか、ミーティングやユニット会で話し合い、職員間で共有している。職員は介護していく上での指針となるよう理念を振り返り、利用者側の目線に合わせたケアを実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して、自治会や市行政の方から情報を頂き協力ができるようにしている。 いろいろな面で積極的に協力できる姿勢でいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、回覧板などで敬老会や地方祭などの地域の情報を得て、利用者と一緒に参加している。民謡などのボランティアの訪問や小学生のふれあい訪問があったり、幼稚園の運動会に参加したりするなど、交流を楽しんでいる。地域からの要望により、年4回発行する「むつみ新聞」に介護に関する情報を掲載し、回覧している。職員は自治会の掃除当番などの活動を通じて、地域住民と顔見知りとなるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所での避難訓練や救命講習への参加の呼びかけを行ったり、むつみ新聞の配布を行い、その中で脱水対策、転倒防止、認知症についての啓発を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、年6回の開催。事業所の運営状況・取り組みを報告すると共に、ご家族、地域住民、行政等の方のご意見を頂きサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、協力医、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催している。会議は家族が参加しやすいよう日曜日に実施している。会議では事業所の報告を行うほか、避難訓練やAEDの使用方法、餅つき、食事会などと合わせて開催する工夫をしている。職員は交代で参加し、参加者から出された意見はサービス向上に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 密な連携といっても難しい。管理者・ユニットリーダーは、必要に応じて担当者に相談。関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターを兼務する市担当者には毎回運営推進会議に参加してもらい、アドバイスをもらっている。分からないことがあれば、直接窓口に出向き相談している。毎月事業所の待機者情報をメールで送信し情報を共有している。また、2か月に1回、2名の介護相談員の訪問があり、利用者との相談に応じたり情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 十分な理解には至っていないが、ケアの実施にあたっては、これはどうだろうかと問題提起しながら対処している。	
			(外部評価) 職員は外部研修に参加したり勉強会を実施したりするなど、職員全員が理解して身体拘束をしないケアに努めている。外出しようとする利用者には職員と一緒に散歩するなど見守りで対応しているが、難しい場合は精神科医に相談したり一時的に玄関を施錠する場合もある。帰宅願望のある利用者には自宅で過ごす時間を設けている。ベッドから転倒の恐れがある利用者にはベッドの位置を検討するなど、拘束に繋がる恐れのある場合には代替のケアはないかなどを関係者で話し合いをしている。また、身体拘束のほか、言葉や精神面での拘束についても職員間で話し合いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修等には積極的に参加。入居者の方が精神的にも身体的にも苦痛を感じないよう生活支援ができるようにしている。言葉づかいにも注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、活用している方がいないのでピンとこないところがある。学ぶ機会も少なく理解不足である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の相談時から事業所の考え方を説明。本人、ご家族に納得して利用して頂いている。入居時の契約に際しては管理者・現場職員が関わり十分な説明をしご家族の理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族に対して、入居者の生活の状況を密に報告するようにしている。メッセージカードをご家族に送付。面会時等を利用して意見交換を図るようにしている。運営推進会議等でも意見交換ができるように心がけている。	
			(外部評価) ほとんどの家族は月1回以上面会があり、意見や要望を聞くようにしている。介護計画作成時にも意見を聞いているが、事業所にお任せするという意見が多い。毎月、担当職員が利用者の生活状況を記録したメッセージカードを作成し、利用者本人が書いたメッセージと併せて送付している。家族から出された意見は連絡ノートに記録し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に部署会を開催。スタッフからの意見をリーダー会で検討。スタッフにフィードバックしている。年度始めの事業計画等に反映させている。</p> <p>(外部評価) ユニット毎に建物が分かれており、それぞれが一つの家庭と捉え、ユニットリーダーを中心にして職員は自由に意見を伝えることができる関係づくりができています。リーダーは職員から出された意見を集約し、部署会で報告し、管理者は「むつみの家」の意見として法人会議で報告するなど、職員の意見を段階的に法人代表者に伝える体制ができています。職員から積極的な意見や提案が出され、運営に反映されることで働きがいにも繋がり、長期に勤める職員も多い。また、年1回管理者は職員と個別面談を実施し、意見交換をしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 母体病院の事務長・看護部長が巡回している。その機会を活用し、職場環境の改善等をお願いしている。また、法人の理事である医師がグループホームの担当医師であり直接相談できる状況である。管理者は母体病院で定期的開催される会議の中で運営報告、改善を図っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内で全職員に対して定期的な研修を実施している。事業所内でも定期的に研修会を実施。事業所外に於いても上部組織の開催する研修には積極的に参加できる体制にしている。個々の資質の向上が図れるようにしている。今後は得た情報の共有の充実を図りたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 定期的に開催される地域密着型サービス協会主催の研修に参加。知識・技術だけでなく、ネットワークを大切にしている。継続して行きたい。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前の状況を把握、ご家族の意見・要望を十分聴き取り、日々のケアのなかで声掛け・見守りを密にし、本人の不安の軽減に努めている。また、職員間の情報の共有をより密にしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の段階で、ご家族からの相談、要望に耳を傾けるよう意識している。 入居前に提供されるフェースシートの情報も大切である。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時、その後も、常にご家族・ご本人の希望・要望等をお聞きしスタッフ間で話し合い、期待に添えることのできるよう心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) その方、その方の思いを、いち早く気づき、楽しく生活できるように配慮し続けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡・報告が一番大切なこととし、その都度電話報告、面会時の情報提供、メッセージカードを活用しての情報提供を行っている。入居者の生活の情報の提供を密にとり、本人さんの状態把握をして頂き、職員だけでなくご家族の協力を頂きながら支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 事業所としては、本人の馴染みの関係を大切に考えている。しかし、それぞれのご家族によって状況が異なる。ご家族の了解のある方については積極的に受け入れている。状況によってはすたっふが介入しながら支援している。 (外部評価) 家族や知人等に気軽に事業所を訪問してもらえるよう心がけて対応をしている。馴染みの美容室等に出かけられるよう支援している。必要に応じて訪問美容や訪問歯科に来てもらい、新しい馴染みの関係もできている。ユニット間は別々の建物になっているが、民謡ボランティアや小学生の訪問時など、1か所に集まってもらい、他のユニットの利用者との交流を深めている。毎日、家族に電話する利用者の支援をしたり、家族に面会に来てもらうよう働きかけるなど、家族との良好な関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の関係を十分に把握しトラブル時には早急な対応ができるよう心掛けている。入居者の方達が和やかに過ごせるよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には、次の受け入れ先に対して情報提供を行い、随時相談を受けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりのなかで、一人一人の思いや意向の把握に努め、スタッフ間で情報を共有している。 ケアプランの見直し時には、ご本人・ご家族の意向を確認している。 (外部評価) 職員は居室など利用者と1対1で会話ができる時間を設け、思いや意向を把握するよう努めている。日々の生活の中で利用者は思いや意向を言われる場合もあり、把握できるよう努めている。高齢化に伴い、思いを言い表すことのできる利用者が少なくなっているため、会話の中で意向を引き出すように工夫し、家族の協力を得ながら利用者の表情や様子を見て気持ちをくみ取るなど、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) なかなか本人からの情報は得れない。在宅時の担当ケアマネから情報を得たり、ご家族からの情報を基に生活支援をし、入居後の生活を共にするなか状況観察・状態把握をしながら支援の仕方を模索している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りの充実を図り、一人一人の状態把握に努め、ケア・支援の充実にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日、各担当者がモニタリングを行っている。 ご本人から希望を聴くことは難しい時がある。 ケアプラン見直しの際に、ご家族の希望やご意見を聴き、取り入れるようにしている。ご本人主体の介護・支援計画が作成できるようにしている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者毎の担当職員の意見も取り入れ、介護計画を作成している。担当職員がサービス実施状況など細かい記録を確認し、毎月モニタリングを実施している。6か月に1回、家族や担当職員、介護支援専門員が参加したサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態が変化した場合は、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録や週間活動表に具体的に記入し、スタッフ間で共有できるようにしモニタリングしケアプランに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族には、個々の身体的・精神的状況を都度報告し話し合いを持つようにしている。ご家族の状況・ニーズに柔軟に対応・支援しサービスの提供ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方の訪問。訪問歯科・訪問美容の活用。介護相談員の方の訪問。住民運動会への参加。自治会の清掃活動への参加。防災訓練への参加など積極的に地域資源を活用している。また、保育園の園児との定期的な交流をはかったり、毎日の生活食材の買い物同行等を通して個々の能力活用をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に母体病院の担当医が往診している。 往診以外に、個々の入居者のかかりつけ病院があり利用して いる。ご家族が同行したりスタッフが同行したり協力しなが ら対応している。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう支 援している。月2回、母体病院から往診があり、体調面など の管理をしている。協力医となっている母体病院は総合病院 で待ち時間が長い場合、風邪症状や急な体調不良時には近隣 の病院を受診してもらっている。毎日のバイタルチェックや 体調の変化を確認してから受診してもらい、受診後には診療 情報などを病院から報告してもらうなど連携を図っている。 受診は家族の付き添いを基本としているが、家族が同行でき ない場合や緊急時には、職員が受診介助をするなど安心して 医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内の看護師と相談。状況に応じ担当医に相談。 指示を頂きながら対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や担当医と相談、退院の 支援を行っている。できる限り継続的な関わりができる様、 情報を提供し共有を図れるようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、また状態の変化に応じて、その都度事業所としての 考え方を説明している。ご家族としては先々への不安が強 いため母体病院との連携強化を図ると共に特養等の施設への申 請をお願いしている。 (外部評価) 「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を作成 し、入居時に利用者や家族に事業所では看取りをしない方針 であることを説明し、理解を得ている。開設して長年が経過 し、利用者から住み慣れた場所で最期を迎えたい要望が増え ており、重度化した場合でも身体状況に応じて、少しでも長 く事業所で生活が送れるよう、浴室やトイレの改修を検討し ている。また、事業所で対応できなくなった場合には、利用 者が母体病院への入院や介護老人福祉施設へ入所できるよう 支援をしている。	利用者から住み慣れた場所で最期を迎えたい要望が多 いことから、重度化した場合や終末期のあり方を段階 に応じて話し合い、事業所として対応できる内容を十分 説明しながら支援に取り組むことを期待したい。また、 重度や医療度の高い利用者の介護について勉強会を 実施したり、職員間で話し合ったりするなど、利用 者や家族の要望に沿ったケアを実践できる取組みを期 待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体病院の看護師、事業所内のスタッフが定期的に学習会を行っている。また、避難訓練時、消防署の方より初期対応や心肺蘇生、AEDの使用方法など研修をしている。今後も継続して行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練、応急処置訓練の実施。避難指定場所への避難訓練等を実施している。また、自治会の開催する防災研修にも自治会員の一人として参加共に学ぶようにしている。今後も、地域の方との連携強化を図り、非常災害時の対応がスムーズにできるようにしたい。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。実際に利用者と一緒に地域の避難場所となっている小学校まで避難する訓練を行うなど、災害発生時に備えている。緊急連絡網には自治会長も入り、災害発生時は公民館で放送してもらえ体制が取れている。また、地区の防災訓練に参加し、地域との協力体制を築いている。管理者は繰り返し訓練を実施することを大切と考えており、職員全員が利用者の安全を守るため緊張感を持って災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ一人一人が常に入居者の方の人格を尊重し、誇りやプライドを傷つけないよう心掛けている。個々のペースに合わせて自由に過ごして頂けるように支援したい。 (外部評価) 職員は利用者を人生の大先輩として尊重し、乱暴な言葉づかいや指示的な声かけをしないよう配慮して、「一人の人間として暮らしを支える」という気持ちで対応している。利用者の状況により、場所を変えて職員と1対1で向き合い、プライバシーを損ねない対応に努めている。また、利用者の個人情報に配慮しつつ、事業所や利用者のことを近隣住民に知ってもらうよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援、会話のなかで、ご本人の気持ちや思い・希望を聴き取るように心がけている。ご本人が自己決定できる場面を作るようにしている。自己決定できない方はスタッフがその思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを大切に、したい時にしたい事をして頂けるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族とも話し合いながら、その人の状況に応じた身だしなみやおしゃれができる様取り組んでいる。 ご本人と一緒に買い物外出、理美容院への散髪外出などを実施している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々のできる事を負担を感じない様配慮しながら手伝って頂いている。食事の内容も季節や行事に合った献立にし個々の好みに応じて工夫している。 (外部評価) 職員が交代でメニューを考え、毎日利用者と一緒に地域のお店へ買い物に出かけ、季節の旬の食材を取り入れて職員が調理している。利用者一人ひとりの状況に合わせて、食器や食事形態を工夫している。利用者の好みのデザートや飲み物を摂れるよう対応している。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら、朝食と夕食時に同じものを食べている。また、回転寿司などの外食を取り入れ、食事が楽しみになる工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分摂取量を把握、不足がちな人には声掛けを密にしたり内容を変え補助し、十分な栄養と水分を捕って頂けるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔を保てるように支援している。 訪問歯科を導入することで入居者の負担の軽減が図れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄能力・状況に合わせ紙パンツ・パットを使用している。適時、トイレ誘導を行い可能な限りトイレでの排泄ができる様支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者に合わせて声かけをして誘導し、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。紙パンツやパットを使用している利用者もいるが、現状を維持してもらうことを目標にして支援している。スムーズに排泄できるよう、水分量を記録し、一定の量を飲んでもらうよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けているが、困難な方には緩下剤を服用している。個々の排便リズムを把握、調整している。また、水分補給や牛乳・ヨーグルト等の乳酸菌の飲み物を飲んで頂くなどの工夫もしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴できる状況にし、ご本人の意向や心身の状態を考慮し入浴の支援をしている。入浴を嫌がる方へは、声掛けの工夫をして清潔の保持ができる様している。 個々に応じた対応支援を行っている。	
			(外部評価) 2日に1回の入浴を基本としているが、希望に応じて、毎日入浴したい利用者にも対応している。入浴を嫌がる利用者には時間を変更したり、職員が交替して声かけをする工夫をするなど、無理強いせずに入浴してもらえよう努めている。また、シャワーキャリーやチェアなどの福祉用具を使用し、安心安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者個々の状況に応じて声掛けを行い、休息を取って頂いている。夜間の睡眠状況は個々によって違うが覚醒時には、声掛けや見守りを行い、十分な睡眠が取れるよう、その人のペースに合わせた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用、用法や適量については、スタッフ全員が理解できるよう努めている。服用時にはスタッフ間で確認しながら服薬支援を行い、間違いのないようにしている。医療関係者との連絡も密にし情報の共有に努め症状の変化に対して対応できるように心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ケアプランを基本として、ご本人のできることできないこと見極め、場面に応じた支援ができるようにしている。ご本人さんの負担になったり、他の入居者とトラブルにならないよう配慮している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩など、ご本人の希望に応じて支援できるよう心掛けている。地域の行事にも、ご本人さんの状態を考慮しながら参加できるよう支援している。 (外部評価) 日頃から事業所周辺を散歩したり食材などの買い物に出かけている。地域の行事に参加したり、季節に応じて、お花見や紅葉狩りなどに出かけられるよう支援している。車いすの利用者も外出できるよう、母体病院の福祉車両を借りて外出している。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	利用者一人ひとりの状態や習慣、希望に合わせて、重度の利用者にも外出できる機会を作り、利用者が戸外に出て気持ちよく気分転換しながら過ごすことができるよう、一人ひとりが外出を楽しめる支援の取組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は、事務所で行っている。入居者の買い物等については、ご家族の了解を頂き、事業所立替えにて実施できるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期的に電話をかけて下さるご家族もおられる。その際に近況報告をし、ご本人ともお話をしている。毎月、メッセージカード送らせて頂いているが、スタッフからのコメントだけでなく、ご本人さんからの一言も書いて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節を感じることができるよう、花を活けたり、壁面の飾りつけをし皆で楽しんでいる。また、家庭的な雰囲気で落ち着く事のできるような空間づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) ユニット毎が一户の家として、3棟が並んで立っている。庭園付きの民家を改修して開設し、2棟と3棟が増築されている。利用者は窓から庭園を眺めながら、住み慣れた生活の延長として過ごすことができている。共用空間には季節に応じた貼り絵を飾るなど、ユニット毎に特徴を活かした家庭の雰囲気の中で穏やかに過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 各自が落ち着く空間があり、それぞれが自分のペースで生活できるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 基本的には、今まで使い慣れた馴染の家具等を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるように心がけている。ご家族とも相談しながら、ご本人が過ごしやすくなるよう工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室は畳敷きと洋間があり、利用者の状態や生活習慣に合わせて使い分けをしている。居室には利用者の使い慣れたベッドや寝具、テレビを持ち込んでいるほか、仏壇や家族の写真等を持ち込んでいる利用者もあり、一人ひとりが安心して過ごすことのできる空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 軽度の認知症高齢者を対象とした造りになっているが、現在、入居されている方の高齢化により、身体的機能の低下が見られるため、補助具等の活用、また環境整備をしながら安全に生活できるよう支援したい。</p>	